

標準委員会 第37回リスク専門部会議事録

1. 日 時 2016年3月2日（水） 09:30～12:45

2. 場 所 5 東洋海事ビル D 会議室

3. 出席者（敬称略）

（出席委員）山口部会長，山本副部会長，成宮幹事，青木，阿部，北村（途中入室），桐本，倉本，栗坂，越塚，鈴木，曾根田，武部，竹山，中田，松本，丸山，村田，山岸，山中，吉田（21名）

（欠席委員）岡本，Woody，高田（3名）

（常時参加者）菅谷，野村（2名）

（欠席常時参加者）鈴木，堀田（2名）

（オブザーバ）湊 博一（日立GEニュークリア・エナジー），奥野 貴裕（電源開発）（2名）

（事務局）中越，谷井（2名）

4. 配付資料

RKTC37-0 第37回リスク専門部会 議事次第（案）

RKTC37-1 第36回リスク専門部会 議事録（案）

RKTC37-2 人事について

RKTC37-3 “原子力発電所の出力運転状態を対象とした確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル2PRA編）：201X”公衆審査結果

RKTC37-4 「原子力発電所の確率論的リスク評価用のパラメータ推定に関する実施基準：201X」改定の公衆審査結果

~~RKTC37-5-1 津波を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：201X”改定案~~

~~RKTC37-5-2-1 原子力発電所に対する津波を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：201X”改定 新旧比較表~~

~~RKTC37-5-2-2 津波PRA実施基準改訂版 コメント対応表~~

RKTC37-6-1 津波を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：201X”改定案

RKTC37-6-2(1)原子力発電所に対する津波を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：201X”改定 新旧比較表

RKTC37-6-2(2)津波 PRA 実施基準改訂版 コメント対応表

~~RKTC37-6 “原子力発電所に対する津波を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：201X”改定案の最終報告について~~

RKTC37-7-1-1 「原子力発電所の確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル3PRA編）：201X」についてのリスク専門部会意見募集結果

RKTC37-7-1-2 「原子力発電所の確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル3PRA編）：201X」についての標準委員会意見募集結果

RKTC37-7-2 「原子力発電所の確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル3PRA編）：201X”改定案の最終報告について

RKTC37-7-3 「原子力発電所の確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル3PRA編）：201X”新旧比較表（規定部分）

- RKTC37-8 リスク活用にかかる標準の改定について（案）
- RKTC37-9 リスク専門部会標準策定スケジュール（5カ年）（案）
- RKTC37-10 標準委員会 専門部会運営通則”
- RKTC37-11 「原子力発電所の停止状態を対象とした確率論的安全評価に関する実施基準（レベル 1PRA 編）：2010」改定に関する進捗状況について
- RKTC37-12-1 標準委員会・用語集 コメント対応表
- RKTC37-12-2 標準委員会・用語集（案）
- RKTC37-13 分科会・作業会の活動状況について
- RKTC37-14 津波に関するワーキンググループの設置について（案）
- RKTC37-15 “原子力発電所の出力運転状態を対象とした確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル 2PRA 編）：201X 正誤表

参考資料

- RKTC37-参考 1 リスク専門部会委員名簿
- RKTC37-参考 2 標準委員会の活動状況
- RKTC37-参考 3 第 16 回 PRA 活用検討タスク議事録

5. 議事内容

議事に先立ち、事務局から開始時点で委員24名中、20名の出席があり、委員会成立に必要な委員数（16名）を満足している旨、報告された。

(1) 前回議事録（案）について（RKTC37-1）

前回議事録（案）について配付された内容で承認された。

(2) 人事について（RKTC37-2）

事務局から RKTC37-2 に基づいて、専門部会及び分科会の人事について以下の提案があり審議を行った。

1) 専門部会

① 委員再任（決議）

阿部 博（テプコシステムズ）

青木 繁明（三菱原子燃料）

山中 康慎（東京電力）

2) 分科会

①□ 委員退任の確認

核燃料施設リスク評価分科会

関根 啓二（元 日本原燃）

レベル 1PRA 分科会

五十嵐 祐介（日本原子力発電）

佐藤 親宏（テプコシステムズ）

② 委員選任の承認（決議）

レベル 1PRA 分科会

石田 国大（日本原子力発電）

日高 一誠 (テブコシステムズ)

③ 常時参加者登録解除の確認

レベル1 PRA 分科会

小原 教弘 (関西電力)

④ 常時参加者登録の確認

レベル1PRA 分科会

東山 陽 (原電エンジニアリング)

福井 里留 (関西電力)

外的事象 PRA 分科会

出井 千善 (原子力規制庁)

審議の結果、上記案について確認、承認または再任決議された。

(3) 【報告・審議】「原子力発電所の出力運転状態を対象とした確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル2 PRA 編：201X）改定の公衆審査結果について(RKTC37-3, RKTC37-15)

事務局から RKTC37-3 に基づいて、”原子力発電所の出力運転状態を対象とした確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル2 PRA 編：201X” の公衆審査結果、意見がなかったことが報告された。引き続き、レベル2 PRA 分科会の中村幹事から RKTC37-15 に基づいて、公衆審査後に見出した誤記対応について報告があった。

質疑等は以下のとおり。

Q:No.21 の図面の修正により、内容が変わることはないのか。

A:当該図面は、表に付随された補足的な小さな図面であり、当該表が全体表の内のどの分を指すのかを示す補足的な役割である。したがって、この変更により内容が変わることはない。

審議の結果、誤記内容は編集上の修正であること及び修正した内容を標準委員会で報告することが決議された。

(4) 【報告】「原子力発電所の確率論的リスク評価用のパラメータ推定に関する実施基準：201X」改定の公衆審査結果について(RKTC37-4)

事務局から RKTC37-4 に基づいて、”原子力発電所の確率論的リスク評価用のパラメータ推定に関する実施基準：201X” の公衆審査結果、意見がなかったことが報告された。

(5) 【本報告・審議】「原子力発電所に対する津波を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：201X」改定案の最終報告について(RKTC37-6-1, RKTC37-6-2(1), RKTC37-6-2(2))

津波 PRA 作業会の桐本幹事、倉本委員から、RKTC37-6-1, RKTC37-6-2(1), RKTC37-6-2(2) に基づいて、”原子力発電所に対する津波を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：201X “について報告があった。

質疑等は以下のとおり。

Q:適法範囲には、地震以外の要員による津波に起因する PRA にも適用できるという記載があるが、他の要因とはなにか、また評価についての扱いは。

A:適用範囲の詳細については解説に、陸上の山体崩壊物(斜面崩壊含む)の海中突入、海底地すべり、火山現象(山体崩壊またはカルデラ陥没))が記載されている。本標準は発生した津波に対する PRA を規定するものとして、そのすべての要因を扱うものとしている。

Q:コメント対応表にまだ△の対応中の状態のものが2点あるが、対応はされているか。

A:参考文献が当該附属書中に残っており、集約されていないというものであり、編集で修

正するもの。本標準の附属書は、策定中のため発行見込みである土木学会の「原子力発電所の津波評価技術」等の最新知見を可能な限り先行して取り込んでいるため作業として残っていたもので、附属書 AC に移行することで対応は完了する。

審議の結果、30日間の投票に移行することが決議された。

(6) 【本報告・審議】「原子力発電所の確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル 3PRA 編）：201X」改定案の最終報告について(RKTC37-7-1-1, RKTC37-7-1-2, RKTC37-7-2, RKTC37-7-3)

レベル 3PRA 分科会の本間主査、成宮幹事、野村常時参加者から、RKTC37-7-1-1, RKTC37-7-1-2, RKTC37-7-2, RKTC37-7-3 に基づいて、“原子力発電所の確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル 3PRA 編：201X”改定案について報告があった。

質疑等は以下のとおり。

C:リスク専門部会及び標準委員会で受け付けたコメントの対応をどうしたのか確認したい。書面投票の際にはそのコメント対応表も付けていただきたい。

A:拝承。

審議の結果、リスク専門部会及び標準委員会で受け付けた意見への対応表を標準案に添付し30日間の投票に移行することが決議された。

(7) 【審議】リスク活用にかかる標準の改定について（案）(RKTC37-8)

リスク専門部会の成宮幹事から、RKTC37-8 に基づいて、“リスク活用にかかる標準の改定について（案）”について報告があった。特に質疑はなかった。

審議の結果、“リスク活用にかかる標準の改定について（案）”は承認され、システム安全専門部会（3月3日）に提案することとなった。

(8) 【審議】標準策定5カ年計画について(RKTC37-9)

リスク専門部会の成宮幹事から、RKTC37-9 に基づいて、リスク専門部会標準策定スケジュール（5カ年）（案）について報告があった。

質疑等は以下のとおり。

Q:英訳途中のものはあるのか。

A:地震 PRA 標準については、2007年版に本文だけだと40ページほど追加したものなので、NRCの翻訳を元に作業を進めることを考えているが、他の標準については手付かずである。

C:標準英訳の目的を考えれば、標準丸々全部を翻訳する必要は無いのではないか。進め方を検討する必要がある。

審議の結果、リスク専門部会標準策定スケジュールを標準委員会で提案することが決議された。

(9) 【審議】“標準委員会 専門部会運営通則”改正について(RKTC37-10)

事務局から RKTC37-10 に基づいて、“標準委員会 専門部会運営通則”改正について提案があり、審議の結果、“標準委員会 専門部会運営通則”改正について30日間の投票に移行することが決議された。

(10) 【報告】「原子力発電所の停止状態を対象とした確率論的安全評価に関する実施基準（レベル 1PRA 編：201X）定例改定に関する進捗状況について(RKTC37-11)

レベル 1PRA 分科会の鎌田幹事から、RKTC37-11 に基づいて、“原子力発電所の停止状

態を対象とした確率論的安全評価に関する実施基準（レベル 1PRA 編：2010”改定に関する進捗状況について報告があった。今後は委員専用サイトを利用し、3 日間の意見募集を行うこととなった。

(11) 【報告】「標準委員会・用語集」の標準委員会意見募集結果と対応(RKTC37-12-1, RKTC37-12-2)

リスク専門部会の成宮幹事から RKTC37-12-1, RKTC37-12-2 に基づいて、「標準委員会・用語集」の標準委員会意見募集結果及びその対応について報告があった。

6. その他

・次回のリスク専門部会は、2016 年 6 月 6 日(月) 9:30 から開催となった。

以上